

## 月ヶ瀬 飛騨匠の碑



<http://digitalarchiveproject.jp/information/月ヶ瀬 飛騨匠の碑/>



<祭神> 応神(おうじん)天皇・熱田(あつたの)大神、香椎(かしいの)大神

末社 稲荷(いなり)神社、天満神社、秋葉神社、難波根子武振熊(なにわねこたけふるくまの)命など

<由緒> 桜山八幡宮の創建は、遠く仁徳天皇の御代にさかのぼる。

飛騨の両面宿難を攻めた難波根子武振熊命は、飛騨への侵攻にあたって道沿いに八幡社を祀って戦勝祈願をした。八幡社は先帝(御父君)応神天皇の尊霊を祭神とする。

元和 9 年、高山の国主金森重頼は、江名子川から発見した御神像を八幡宮旧跡の桜山老杉の傍らに、応神天皇の御神体として奉安した。そこで早速社殿を再興、神領を寄進し、高山の安川以北を氏子と定めて神事を管理し、高山城下町の総鎮守社とした。

明治 25 年には飛騨国中随一の大神輿が造られ、昭和 43 年には屋台会館が造られた。昭和 51 年には総檜造りの社殿を改築。

<祭祀>

例祭には金森国主より奉行正副が特派され、神事を管理せられた。奉行祭は幕府直轄となってからも復活し、祭日には代官所が休庁となり、郡代自ら幣帛を捧げて参拝した。例大祭は金森時代には 3 年に 1 度、享保の頃は毎年 8 月 1 日に行なわれていた。

例大祭・試楽祭 10 月 7 日午後 7 時、引き続いて屋台順番抽籤祭・年行司順番抽籤祭。献幣祭(例大祭)は 10 月 9 日午前 10 時。屋台曳き揃えは 9 日表参道、宵祭 9 日午後 6 時半より、御神幸祭 10 日午前 8 時、御旅所祭同正午、還御祭同午後 5 時。試楽祭 10 月 7 日。例大祭 10 月 9 日。御神幸祭 10 月 10 日。八幡宮の屋台は現在 11 基ある。

参考文献 『飛騨の神社』388～391 頁 飛騨神職会発行 昭和 62 年 11 月 3 日



0001\_周辺



0002\_周辺



0003\_周辺



0004\_周辺



0005\_周辺



0006\_周辺



0007\_周辺



0008\_周辺



0009\_周辺



0010\_周辺



0011\_周辺



0012\_周辺



0013\_周辺



0014\_撮影風景



0015\_撮影風景



0016\_撮影風景



0017\_撮影風景



0018\_月ヶ瀬橋



0019\_月ヶ瀬橋



0020\_月ヶ瀬橋



0021\_月ヶ瀬橋



0022\_月ヶ瀬橋



0023\_月ヶ瀬橋



0024\_月ヶ瀬橋



0025\_月ヶ瀬橋



0026\_月ヶ瀬橋



0027\_月ヶ瀬橋



0028\_月ヶ瀬橋



0029\_月ヶ瀬橋



0030\_月ヶ瀬橋



0031\_看板



0032\_看板



0033\_看板



0034\_看板



0035\_看板



0036\_看板



0037\_看板



0038\_看板



0039\_看板



0040\_看板



0041\_看板



0042\_看板



0043\_看板



0044\_看板



0045\_看板



0046\_看板



0047\_看板